

## 平成22年度 第2回川崎市教育改革推進協議会（摘録）

- 日 時 : 平成22年8月6日（金）15:00～17:00  
場 所 : 教育文化会館 第4会議室  
出席者 : 小松委員、田中委員、山田委員、宮嶋委員、小原委員、堀切委員、  
深澤委員、門倉委員  
（事務局）金井教育長、伊藤総務部長、手呂内職員部長、海野教育環境整備推進室長、  
渡邊学校教育部長、鈴木教育改革推進担当部長、沼田生涯学習部長、  
広瀬企画課長 ほか  
欠席者 : 高木委員、大下委員、白川委員  
傍聴者 : なし  
司 会 : 広瀬企画課長

### 〔配布資料〕

- ・かわさき教育プラン第2期実行計画 平成21年度版点検・評価について
- ・かわさき教育プラン第3期実行計画 主要課題について
- ・平成22年度 第1回 川崎市教育改革推進協議会摘録
- ・川崎市教育改革推進協議会委員名簿
- ・かわさき教育プラン第3期実行計画・市総合計画第3期実行計画  
策定スケジュール（平成22年8月時点）

### 1. 開会

- ・本協議会が公開会議であることの報告
- ・新任委員あいさつ
- ・教育長あいさつ

### 2. 説明（事務局より）

- ・かわさき教育プラン第2期実行計画 平成21年度版点検・評価について
- ・かわさき教育プラン第3期実行計画 主要課題について

### 3. 協議題

- ・かわさき教育プラン第3期実行計画 主要課題について

### 〔委員からの質問・意見及び事務局からの回答〕

- （座長） ・第2期実行計画の21年度版点検・評価については、事務局からの説明にもあったように、何かお気づきの点があれば事務局へご連絡いただくということでしょうか。
- （委員） ・《了承》
- （座長） ・他都市でも教育委員会の点検・評価を行う評価委員を務めているが、他は個人で評価を行っている。委員会形式で評価をするのは珍しいと思う。川崎の資料は少し細かいが作りがいいと思う。

- ・それでは、第3期実行計画の主要課題について、感想やご意見があればどうぞ。
- (委員)
- ・昨年までの議論では、教育は学校教育のみに注目するのではなく、学校支援を通して地域の大人と子どもが互いに学び合い成長する、といった視点を取り入れたと記憶しているが、今回の資料を見る限りでは学校中心になっている。社会教育を専門に行っている者としては、学校支援センターと生涯学習の関連などについても考えたいところで、学校支援センター活動の充実のためには、地域の大人が学ぶことができる、総合的な社会教育の場が必要だと思う。
  - ・理科支援については、地域の中で行っていくことが重要で、活動に誘う仲間が増えていくことが地域の中で学びあいの環境をつくっていくことにつながる。
  - ・地域での活動を学校が支援や後押しすることも必要だと思う。
  - ・「特色ある学校づくり」については、他の学校との「差別化」になりかねないのではないかと。すでに地域や家庭に特色はあるものなので、「地域の特色に応じた学校づくり」のほうがいいのではないかと。
- (委員)
- ・特色については同感である。また、中学校ではやはり多忙化が深刻。週20時間は授業があり、子どもたちを落ち着かせることがなかなかできない。もう少し生徒たちとゆっくり対話をしたい。教員の定数改善を検討して欲しい。共生・共育プログラムは助かっている。緊急な課題に対応してくれていると感じている。
- (事務局)
- ・多忙化については重要な課題だと認識している。本来教員がやるべきことなのかどうかといった曖昧な部分が負担になっているのではと思う。定数改善についても県などと協議を進めていきたい。
- (委員)
- ・小・中学校での英語によるALTとのコミュニケーションについては、子どもたち自身の中に発信できるものがないとコミュニケーションは取れないと思う。自ら発信できる経験・体験を蓄積することが必要で、言語だけでコミュニケーションと言っているのか。もっと体験を重要視すべきだと思う。
  - ・スクールソーシャルワーカーの取組については、学級に配慮が必要だと思う。「かわさき共生\*共育プログラム」はグループをつくって進めていくことが必要で、教員だけでなく保護者にも必要ではないかと。
- (委員)
- ・施設の再生についてはとてもありがたい。前に赴任していた学校では17年目の建物で、水周りに不具合があったり、手すりがサビていたりした。ある程度事前に対応してもらえた方が、コストパフォーマンスもいいように思う。
  - ・「特色ある学校づくり」という表現は、10年前から誤解を招きやすかった。趣旨等、理解はしているつもりだが、学校間で揃えるべきところは足並みを揃えて、地域に徹していくことが必要なのではないかと。
  - ・新学習指導要領になり、学習時間や内容が増えていく中で、新たに時間を作れない。校内研修を行いたいが、その場(時間)が作れない。定数の問題もあり、人と時間の問題はなかなか消えない。
- (委員)
- ・区・学校支援センターは登録している人数が少ないように思う。情報

が増えれば、もっと利用も増えるはず。学校とボランティアの関係はできているので、配布したリストを電子媒体にするなど、使いやすいようにしてはどうか。中学校の職業体験の時にもリストを活用できたらいいと思う。

- (委員) ・親への日本語支援の必要性を出せないだろうか。外国人の児童生徒が増加しているということは、保護者もまた増加しているということ。川崎区は市内で最も外国人市民が多いが、子どもの学習支援だけでなく、親への支援をもっとプランに位置づけられないか。行政の中での連携も行って欲しい。また、市民館などで行っている日本語学級では、マニュアル（テキスト）を大阪から取り寄せているらしい。川崎版などをつくってはどうか。
- (事務局) ・学校で行っている児童生徒への日本語学習支援は、協力者の方々の豊富な経験から成り立っている。今後も相談体制の充実や取組の強化を図っていきたい。
- ・市民館の日本語学級で使用している教材は、それぞれの館や学級によって異なっている。川崎区で主に使用しているのは、ふれあい館の日本語学級のボランティアから「基礎を学ぶのには使いやすい」と勧められたもので、大阪市にある団体が発行しているものである。（補足：川崎独自という点では、(財)川崎市国際交流協会が作成しているテキストがあるが、内容的に、市民館の日本語学級では使いにくい部分があるとのことで、多くの学級では出版社が発行している一般的なテキストを用いながら、ボランティアが工夫して支援している。）
- (委員) ・家族に小学校と中学校の子どもがいるが、子どもの年齢で質が違うように思う。小中連携は大切だが、中学校のALTが小学校でもできるものなのか。ALTの採用基準などもう少し明確に示してくれると親は安心する。また、授業は基本的に教員が行うものと思うが、それに加えてALTや理科支援員などが入る、という、学校の体制や様子が見えるとなおよいと思う。施設の再生整備に関連して、子どもによって、エアコンの使い方や温度について感じ方が違うようだ。エアコンの温度の上げ下げなど、教員と児童生徒のコミュニケーションの一つにしてもらえればいいと思う。
- (事務局) ・児童生徒一人ひとりの感じ方の違いもあれば、エアコンで「暑さを凌ぐ」のか「涼しむ」のかといった基準の違いもある中で、コスト面にも気をつけなければならない。省エネ法の関係もあり、使い方の指針を出しているところだ。
- (委員) ・教室によっても温度はだいぶ異なる。3階ですぐ上が屋上という部屋は照り返しでどうしても暑い。
- (事務局) ・すべての教室に環境対策として断熱ペアガラス等を設置しているわけではないので、学校へは子どもたちの様子を見ながら、対応をお願いしたい。
- (委員) ・「特色ある学校づくり」の表現については、「地域の特色に応じた学校づくり」の方がいいと思うが、教員の異動サイクルが早くなっていて、地域の特色を学校に反映するのは難しいのでは。子どもが卒業して2

年程たつて学校に行ったら、先生がまったくわからなかった。地域の祭りのパトロールで会っても、先生なのかどうかもわからないこともある。

- ・「共生＊共育プログラム」は非常にいいプログラムだと思う。子どもがやったあとには、いい状態を保てるように保護者にもその情報が届くようにしてほしいし、家族向けにも行って欲しい。
- ・スクールソーシャルワーカーの増員は嬉しいことだが、中学校に配置されているカウンセラーの活用も考えて欲しい。
- ・子どもの音楽の祭典など、コンサート鑑賞は応募が多くて落選する学校もあるようだが、もったいない。希望する学校はすべて鑑賞できるようにしてほしいと思う。
- ・武道の必修化については、ちゃんと武道を経験したことがある教員が指導するのか。新学習指導要領になって導入されるが、経験がない教員が指導することのないようにしてほしい。
- ・食育の推進は、全国的にも言われていることなのに、計画に入っていないことが残念に思う。

(事務局)

- ・武道の必修化については、今まで選択制で選んでいたものが必修化されるということなので、現在も指導している。経験のない教員が指導を行うことはないので、安心していただきたい。
- ・「特色ある学校づくり」の表現については、学校の歴史が築いてきた特色もあると思うので、あえて地域と限定していない。今後も学校には「特色」の意味を広く捉えてもらうように、周知していきたい。
- ・ALTの小学校への配置については、これによって英語が話せるようになるわけではなく、中学校で学ぶ英語の素地をつくることが目的である。そのため、小学校の英語活動によって外国人とコミュニケーションがとれるようになるというわけではないが、外国人と話す体験を大切にしてもらいたいと思う。
- ・食育については、第3期実行計画で特出しはしていないが、中学校でのランチサービスの普及から、食育についても啓発できるのではと考えている。

(座長)

- ・理科支援員のところに「将来、科学を必要とする職業に就きたいと思う子どもの割合」の調査結果が引用されているが、そもそも、義務教育で必要なのは、将来仕事ができる力をつけることではないのか。日本の教育は経済との結びつきが弱く、「税金を納める人間を育てる」という意識が薄い。理科教育の推進のところに市長の「市政運営方針」が抜粋されているが、その言葉の意味をもっと広く捉えてはどうだろうか。日本の企業産業を支える人材を育成してほしいと思う。
- ・授業力向上に力を入れている自治体は、学力テストの結果にそれが出ているように思う。そのためには多忙化解消が必須で、学校に合った授業力向上を行って欲しいと思う。また、総合教育センターの事業が見えないのが残念。立派な研究機関なのだから、もう少しセンター事業が見えてもいいと思う。
- ・教育プランとして、教育と福祉の連携が見えると、全体像としてよい

のではないかと思う。

- (委員) ・全国校長会では、指導力向上の課題として、「リードする教員の育成」が最も多かった。校内研究や子どもの学力向上の手法は教員の指導力向上になっている。
- (座長) ・研究は“その内容が授業で本当にできるのか”という観点で評価を行うことが必要。それが研修の充実にもつながっていく。
- (委員) ・教員が育てば落ち着いた授業ができる。教員の経験不足もある中で、授業力だけでなく人間力の向上を図っていくためには、地域との交流が重要だと思う。
- (事務局) ・特色ある人材を採用する取組は、うまく動き始めている。初任研では4日間の宿泊研修を行うが、勉強になったという声が多く聞かれた。そこで得たものを2年目・3年目になって活かしているかが課題になってくる。新しい教員が増えている中で、どこの学校でも同じようによい動きができるようにシステムづくりをしていかななくてはいけないと思う。
- (座長) ・教育プラン第3期実行計画については、やるべきことは入っていると思うので、各種のニーズを受け入れてブラッシュアップして欲しい。

〔協議終了〕

事務連絡後、閉会